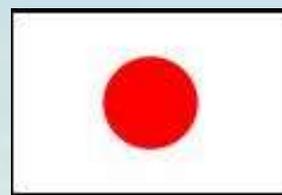


日本 インドネシア国交樹立 60 周年記念事業



日本 ⇄ インドネシア ティーンエイジ アンバサダー 2017 日本プログラム 実施報告書



インドネシア ⇄ 日本へ



AEON 1%
Club Foundation

日本⇄インドネシア 高校生国際交流事業



日本プログラム

I. 交流期間：1月29日（月）～2月4日（日）

II. 参加者：

日本高校生（筑波大学附属坂戸高等学校） 16名
インドネシア高校生（Senior High School of Ummul Quro, Bogor） 16名

III. 訪問場所：東京都、神奈川県、埼玉県 羽生市・坂戸市、群馬県 沼田市

IV. 事業の目的

本事業は、次代を担う日本と海外の高校生が相互交流を通じ、互いの国の文化や価値観の多様性を学ぶことを目的とした交流事業です。

V. 交流プログラム内容：

① 表敬活動

外務省表敬訪問	1/30（火）	東京都
元駐インドネシア日本大使交流会	1/30（火）	東京都
駐日インドネシア共和国大使館 歓迎会	1/30（火）	東京都

② 歴史・文化理解活動

視察・学習プログラム

味の素川崎工場視察	1/29（月）	神奈川県
イオン歴史館視察	1/29（月）	千葉県
イオン埼玉羽生農場視察	1/31（水）	埼玉県羽生市
女子栄養大学訪問	1/31（水）	埼玉県坂戸市

体験プログラム

藍染体験	1/30（火）	東京都
こけし絵付け体験	2/1（木）	群馬県北群馬郡
雪体験・餅つき体験	2/1（木）	群馬県沼田市

③ 交流活動

学校訪問・授業体験	2/2（金）	埼玉県坂戸市
ホームステイ	2/2（金）-2/4（日）	埼玉県
フェアウェルパーティー	2/4（日）	埼玉県川越市

VI. 今回の交流プログラムの特徴

「食と農業」をテーマにイオン埼玉羽生農場の視察を通じて、日本の農業従事者の平均年齢や農場で採れた作物が店舗で販売され、店舗での残さを肥料として農場で再利用し、作物を育てるリサイクルループの取組み等を学習。女子栄養大学にて、消費者としての食と持続可能な社会との関係について受講し、グループディスカッション、発表を通して理解を深めた。

VII.活動の様子：

【1】【表敬活動】

◆ 外務省表敬訪問 1月30日

(レクチャーより抜粋)

2009年にインドネシア着任の際、現地の人たちと友達になって、文化やインドネシアの国を理解しなければならなかったと思います。そこで言葉を学ぶためにブンチャクシラット（インドネシア武術）道場に通いました。おかげで、宗教、文化、インドネシアについても理解を深めることが出来ただけでなく、今でも連絡を取り合うたくさんの友人を作ることができ、貴重な経験になりました。



↑外務省南部アジア部 南東アジア第二課長 宮本様よりレクチャー
(お一人で日本語とインドネシア語によるご説明をいただきました)



↑宮本課長へ質問をするインドネシア高校生



↑宮本課長へ記念品を贈呈する両国高校生

◆ 元駐インドネシア日本大使交流会 1月30日



↑当財団鹿取 理事（元駐インドネシア日本大使）のレクチャーを聴く両国高校生

(レクチャーより抜粋)

外交官の仕事には何よりもその国をよく知ることと、友人を作る事が大切です。その国を知るためには、実際にその国に住み、その生活を楽しみ、そして国民性を理解することが大事です。また、相互理解を促進するには、オープンマインド、寛容な心で互いにコミュニケーションを取ろうとすることが大切です。言葉については、英語はもちろん、英語+one、もう一つの言語が話せるとなお良いでしょう。



↑鹿取 理事へ記念品を贈呈するインドネシア高校生



↑鹿取 理事を囲んで記念撮影

◆ 駐日インドネシア共和国大使館歓迎会 1月30日



↑大使館にて歓迎会の記念撮影

(前から2列目 左から) 高橋丈晴 イオン(株) 執行役、鹿取克章 元駐インドネシア日本大使、三原じゅん子 議員、中曽根弘文 議員、茂木敏充 議員、アリフィン タスリフ 大使閣下、横尾博 イオンワンパーセントクラブ 理事長、小淵優子 議員、中山泰秀 議員、岡崎双一 イオンワンパーセントクラブ 理事、三宅香 イオン(株) 執行役
(前から4列目 左から) 新田悟 (株) イオンファンタジー 常務取締役管理統括、城友美 イオンコンパス(株) 取締役、河原健次 イオンフィナンシャルサービス(株) 代表取締役社長、横山憲男 イオントップバリュ(株) 取締役副社長



↑アリフィン タスリフ 駐日インドネシア共和国 大使閣下よりご挨拶

(スピーチより抜粋)

政治・経済の分野だけでなく、国民の間での交流が進んでおり、皆さんが行っている様な交流が、将来に向けてより良い友好関係を構築していく上での基盤となることを確信しています。今回の交流を通じて、日本とインドネシアの友好関係がさらに強まることを願っています。

(スピーチより抜粋)

インドネシア高校生の皆さん、日本のファンとしてインドネシアと日本を繋ぐ本当の大使になってほしいと願っています。そして日本の高校生の皆さん、インドネシアの皆さんを満身の愛情で受け入れてあげていただきたいと思います。



↑福山 哲郎 議員よりご挨拶

(スピーチより抜粋)

オリンピック、パラリンピックが2年後東京で開催されます。是非皆さんもその時に街へ足を運んでみてください。日本 インドネシア両国の皆さんが協力し合い、先頭に立って活躍されることを期待しています。



↑丸川珠代 議員よりご挨拶



↑中川正春 議員より乾杯のご挨拶

(スピーチより抜粋)

皆さんと会えることを楽しみにしていました。日本には春、夏、秋、冬と四季があり、この季節のサイクルが一年を通して日本の文化の基本になっています。インドネシアの皆さん、日本の皆さんと有意義な交流ができることを願っています。次は日本へ留学生となってまた帰ってきて下さい。



↑インドネシア高校生代表スピーチ

(スピーチより抜粋)

日本とインドネシアは国交を樹立して 60 年になります。私たちは、日本での滞在を通して歴史や文化を学び、様々な活動を通じてティーンエイジ アンバサダーとしての役割を果たしたいと思っています。



↑日本高校生代表スピーチ

(スピーチより抜粋)

日本プログラムでは、文化や言語の違いを学び、国の距離ではなく心の距離を縮めることができる様に交流することができればと思っています。ティーンエイジ アンバサダーとして日本とインドネシアの関係を強化できる様にしていきたいと思っています。



↑アリアフィン タスリフ 大使とアンクルン (インドネシア竹製の打楽器) について話をするインドネシア高校生



↑外務省南東アジア第二課 宮本 課長と記念撮影する日本高校生



↑シラット (インドネシア武術) を披露するインドネシア高校生



↑詩の朗読をする日本高校生

【2】【歴史・文化理解活動】

◆ 味の素川崎工場視察 1月29日



↑かつお節けずりにチャレンジする
インドネシア高校生



↑ほんだしの原料であるかつお節の燃えかすを肥料として再利用する等
原料を活かす取り組みについてレクチャーを受けるインドネシア高校生

◆ イオン歴史館視察 1月29日



↑イオンワンパーセントクラブの活動について新井 館長より
説明を受けるインドネシア高校生



↑新井 館長（前列左から6番目）を囲んで記念撮影

◆ 藍染体験 1月30日



↑布を藍^{*}で染める両国高校生
*日本古来から伝わる染料



↑それぞれが染め方をデザインし藍で染めた手ぬぐいを見せる両国高校生

◆ イオン埼玉羽生農場視察 1月31日（埼玉県羽生市）



↑日本の農業の現状（食料自給率や農業従事者の高齢化等）について受講する両国高校生



↑田中 農場長よりレクチャーを受ける両国高校生



↑田中 農場長へ記念品を贈呈するインドネシア高校生



↑農場の前で記念撮影

◆ 女子栄養大学訪問 1月31日（埼玉県坂戸市）



↑井元教授によるレクチャー

（レクチャーより抜粋）

「ライフサイクルアセスメント*」や「ヴァーチャル・ウォーター*」、「フード・マイル*」、廃棄等、データに基づいた事実を基にして、今度は、皆さん自身が消費者の立場で「食」について、そして食と持続可能な社会との関係性について考えてほしいと思います。



↑チームディスカッション後に発表するインドネシア高校生

（発表より抜粋）

日本では食品残さを堆肥にする技術があります。そのことを学校でもっと勉強するべきだと思います。インドネシアでは街や河川のゴミが社会問題になっています。その対策としてゴミの分別を推進したり、キャンペーン活動を行うことで多くの人々にゴミの問題について考えてもらえると思います。

*ライフサイクルアセスメント：太陽や水、土壌といったエネルギー源から食物を生産・輸送・選択・調理・食・廃棄という流れの中で食と環境は相関関係にある。

*ヴァーチャル・ウォーター：もしその輸入食材を生産するとしたら、どの程度の水が必要かを推定したもの。

◆ こけし絵付け体験 2月1日 (群馬県北群馬郡)



↑こけしの顔と胴体に絵付けをするインドネシア高校生



↑絵付けが完成したこけしを見せるインドネシア高校生

◆ 雪体験 2月1日 (群馬県沼田市)



↑そり滑りをするインドネシア高校生



↑地面に横たわり、人生初めての雪を体感するインドネシア高校生



↑巨大な雪だるまの前で記念撮影

◆ 餅つき体験 2月1日 (群馬県沼田市)



↑餅つきにチャレンジするインドネシア高校生

【3】【交流活動】

◆ 学校訪問・授業体験 2月2日



↑セレモニーで歓迎されるインドネシア高校生



↑田村校長先生によるスピーチ



↑インドネシア高校生のスピーチ

(スピーチより抜粋)

校長先生始め、私たちの訪問を受け入れて下さった皆さまにお礼申し上げます。ティーンエイジ アンバサダーとしてインドネシアと日本両国の友好関係強化に貢献したいと思っています。そして文化交流と授業体験を通じて、できるだけ多くの事を学びたいと思います。



↑英語の授業で日本高校生とディスカッションするインドネシア高校生



↑校内の畑で白菜の収穫にチャレンジするインドネシア高校生



↑書道体験でペアにカタカナの書き方を教わるインドネシア高校生



↑体育の授業で体操をするインドネシア高校生

◆ ホームステイ 2月2日—4日 埼玉県



↑ホストファミリーと夕食を囲むインドネシア高校生



↑ペアと節分の豆まきをするインドネシア高校生



↑ペアにけん玉を教わるインドネシア高校生



↑足湯を体験し、熱さに顔をゆがめるインドネシア高校生

筑波大学附属坂戸高等学校ホストファミリーのコメント（アンケートより抜粋）

ホームステイの受け入れはとても刺激になり、色々と勉強になりました。

娘から大使活動、歴史文化活動、交流活動の話しを聞き、貴重な体験ができたと思っています。

この交流は、国際交流の必要性を肌で感じられるプログラムであると思います。

たとえ短期間でも様々な活動を通して心を通わせ合う若者の姿を見ることができました。

今回の交流では、多くの貴重な体験をすることができたと思います。

インドネシアでも様々な活動を通して友情が深まることを願っています。

初めてのホームステイの受け入れで緊張と不安もありましたが、とても楽しく過ごすことができました。

家族にとって、文化・食の違いなど勉強になり、貴重な経験になったと思います。

◆ フェアウェルパーティー 2月4日



↑両国高校生、ホストファミリー、来賓での記念撮影



↑筑波大学附属坂戸高等学校 田村校長よりご挨拶

(スピーチより抜粋)

3月には坂戸高校の生徒がインドネシアへ向かい、現地での交流を行います。日本で交流に引き続き、インドネシアで更に親睦を深めることができる様、願っています。



↑ウムル クロ ボゴール高校 アリ アリアンシア 校長よりご挨拶

(スピーチより抜粋)

日本でのプログラムを通して生徒たちは多くのことを学び、非常に貴重な経験になったと思います。それぞれの生徒がこの経験を必ず将来活かすことができると確信しています。3月のインドネシアプログラムで皆さんに再開できることを楽しみにしています。



↑ホストファミリーと記念撮影する両国高校生





↑日本高校生によるパフォーマンス



↑インドネシア高校生によるパフォーマンス



↑インドネシア高校生のスピーチ

(スピーチより抜粋)

日本でのプログラムを通じて多くの知識と経験を得ることができ、インドネシアと日本の友情に誇りを感じています。人生初の雪体験は忘れられないものになると思います。ホームステイではホストファミリーに温かく迎え入れてもらい、まるでインドネシアの家にいる様でした。インドネシアで再会できることを楽しみにしています。



↑日本高校生のスピーチ

(スピーチより抜粋)

私たちは、このティーンエイジ アンバサダー日本プログラムを通じて多くの経験をすることができました。とても有意義な1週間であり、一生の思い出となる事でしょう。そして、3月にはインドネシアでのプログラムがあります。そこでまた多くの経験を積み、将来日本とインドネシアの親睦が今より深いものになる様、私たちティーンエイジ アンバサダーが全力で頑張っていくしたいと思います。



↑参加者全員で今回の活動のハイライトを鑑賞



↑別れを惜しみ抱き合う両国高校生

【4】 参加者の感想：(スピーチ、アンケートより抜粋)

日本でのプログラムを通して、日本の技術、農業、文化、伝統、歴史等たくさんの事を学びました。日本とインドネシアは言葉も文化も違いますが、それが友好関係をつくる妨げにはならないと思います。ホームステイでは、ホストファミリーが歓迎してくれました。もう少しホームステイの期間を長くしてほしかったです。

インドネシア 男子高校生

日本での滞在を通して、日本の皆さんとどの様にしてコミュニケーションをとったらよいのか等、たくさんの事を学ぶことができました。授業体験では、日本の学校の仕組みについて見習わなければならない事が多くあったと思います。また、ホームステイでは、ホストファミリーが温かく迎えてくれて嬉しかったです。とても充実した週末を過ごすことが出来たと思います。

インドネシア 女子高校生

今回交流したインドネシアの皆さんは、英語がとても上手で驚きました。女子栄養大学でチームディスカッションを経験し、ポキャブラリを増やして文章を上手く書ける様に英語の勉強をもっと頑張りたいと思いました。イオンの農場で見た店舗で余った野菜を堆肥にするシステムは、店舗のゴミを減らす良い方法だと思いました。

日本 女子高校生

英語があまり得意ではなかったのですが、ペアや他のインドネシアのみなさんに積極的に話しかけることが出来ました。話していくうちに彼らが、より身近で大切な存在になっていく気がしました。彼らの積極的に様々なことを学ぼうとする姿勢を見習って、インドネシアプログラムも誠心誠意努めていきたいです。

日本 男子高校生

引率先生



アリ アリアンシア 校長

このプログラムを通して生徒たちは多くのことを学び、非常に貴重な経験になったと思います。それぞれの生徒がこの経験を必ず将来活かすことができると確信しています。3月のインドネシアプログラムで皆さんに再開できることを楽しみにしています。



ヒルダ ラフィカ ワティール 先生

このようなプログラムは、日本とインドネシアの国際的な相互理解を深める良い機会になったと思います。生徒たちが日本で筑波大学附属坂戸高校の皆さんと交流し、経験したことは、忘れがたい思い出になるでしょう。